

多くの良き友と語り、
人生の礎を築いた4年間

大学時代を思い出す時、真つ先に脳裏に浮かぶのは経済学史研究会で共に活動した友人たちの姿です。他大学の経済学系サークルと共催した定期発表会では、4年次に幹事役を務めるなど、広く交流を深めました。また、大学祭

学生時代の体験が 人生を支える糧になる。 今しかできない チャレンジを重ねて 自分らしさを確立してほしい。

福岡県朝倉市役所の総務部長として、財務・人事・防災・地域づくりなど、市民生活を支える幅広い職務を統括する鶴田浩さん。行政の実務責任者として2017年の九州北部豪雨の災害復興支援にも尽力する鶴田さんに、学生時代の思い出や生まれ育った地域に寄せる思い、市民と向き合う上で大切にしていることについて語っていただきました。



朝倉市役所総務部 部長

つるた ひろし
鶴田 浩さん

【座右の銘】

「鶏口牛後」

「大きな組織の末端となるより、小さな組織のリーダーになった方がいい」という教訓を含んだ有名な故事成語です。私はこの言葉を「大勢に流されず、確固たる自分の考えを貫くべし」という戒めととらえ、人生の指針としています。日々の仕事においても、常に市民の立場で考え、市民生活の向上に役立つ判断と行動を心掛けていと思っています。

1981年 経済学部経済学科卒業
福岡県立朝倉高等学校出身。大学卒業後、朝倉町役場に入職。2006年の市制施行に伴い、朝倉市役所勤務に。企業誘致、商工観光など、重要な行政テーマを担った後、現職。朝倉市一帯が甚大な被害を受けた2017年の九州北部豪雨では、事務方のトップとして避難指示などを陣頭指揮。現在も復興支援に全力で取り組んでいる。



びが今も自分の中で脈々と生きていくと感じます。
転機を迎えるたびに
地域への思いが深まった

積むことができました。現在、部長職を任されている総務部でも、総合政策や地域振興、財務・人事、防災など、さまざまな部署を統括しています。
もうひとつの転機は、2017年の九州北部豪雨です。災害発生時の緊急対応から今日に至るまで、事務方の責任者として必死の思いで取り組んでいます。変わり

る領域で力を尽くすことが行政の使命です。これからも、災害復興を前に進めながら市職員の結束を強め、緑豊かな自然を生かした素晴らしいまちづくりを目指して着実に努力を重ねていきたいと、日々思いを新たにしています。
九州北部豪雨災害に際しては全国各地からボランティアの方々が駆け付け、復興支援活動に汗を流

してくださいました。その中に、多数の西南学院大生の姿もありました。懸命に取り組む後輩の皆さんはとて頼もしく、勇気付けられました。私も18歳の時に西南学院大学を選んで本当によかったと、母校への誇りを呼び覚ましてくれました。
人生において、学生時代ほど自由な時間に恵まれた時期はありません

の仮装行列に参加し、模擬店運営に力を注いだのも忘れられない思い出です。

印象に残っている授業は、木村毅先生の社会政策論のゼミです。労働争議を題材に、当事者双方の意見を十分に検討する大切さを学びました。この姿勢は多様な市民の意見を尊重する現在の仕事にも通じるものであり、大学で得た学

職しました。

40年近い公務員生活で、大きな転機が2つありました。最初の転機は2006年、朝倉町を含む一市二町の合併による朝倉市の発足です。企業誘致、旧甘木市エリアの市街地活性化、秋月城址を中心とする観光振興など、取り組むべき課題の幅が一挙に広がり、行政に携わる人間として大いに経験を

果てた被災地の姿に平穏な日常の尊さを思い、迅速な情報提供など、行政の一員として市民が今何を求めているかを見極める大切さを学ぶ毎日です。

何か打ち込んだ体験が、
人生を前に進める原動力に

インフラ整備から医療福祉に至るまで、市民生活に関わるあらゆる



せん。時間の使い道を決めることさえも自由です。だからこそ何か一つでも、打ち込めるものを見つけてほしいと願っています。私の場合はサークル活動でしたが、勉強でもボランティア活動でも、興味あることに一心に取り組んだ有意義な経験が心の土台となり、将来どんな道に進もうとも、日々を支える大きな力となるでしょう。